

## ホウレンソウ タネバエについて



図1 幼虫加害による立枯れ症状



図2 芯葉の被害



図3 幼虫



図4 成虫

### 1 生態

タネバエ（ハナバエ科）は、ホウレンソウのほか各種野菜及び豆類を加害する。

成虫は体長約5～6mmの小さいハエで、体色は灰色～褐色と個体差が大きい。耕起後間もない湿り気がある畑に好んで集まり、有機質肥料や未熟堆肥などに含まれる臭気物質にも誘引される。

成虫の発生は年4～6回、越冬世代成虫の発生は平坦地で3月、高冷地で4月頃より見られる。成虫の寿命は半月～4か月と長い。暖地では成虫、幼虫、蛹の各態で、寒地では蛹態で越冬する。

産卵は、主に湿気を帯びた土塊間で行い、およそ、5～6日で孵化する。1雌当たりの生涯産卵数は数個～1000個と個体差が大きい。幼虫は白色～乳白色のウジで、土中に潜んで有機物や膨軟となった種子や根部を食べて成長する。幼虫が播種後間もない種子や、発芽したばかりの幼苗の地際部を加害すると不発芽や立枯れ症状が生じる。芯葉の内部を加害すると、加害された葉は黒色に枯れる。幼虫期間は約2週間であり、蛹化は加害植物付近の土中で行い、羽化するまでの期間は20℃で7～14日である。

※農薬の使用にあたっては最新の登録状況を確認し、適正に使用してください。  
([http://www.acis.famic.go.jp/index\\_kensaku.htm](http://www.acis.famic.go.jp/index_kensaku.htm) 農林水産消費安全技術センター)

## 2 発生状況

成虫の寿命が半月～4か月と長く、世代が混在することから発消長はやや不明瞭になる。高冷地のハウレンソウ栽培では、5～7月及び9月播種の作型で被害が大きい。盛夏期は活動を休止するため（夏眠）、密度が低くなる。

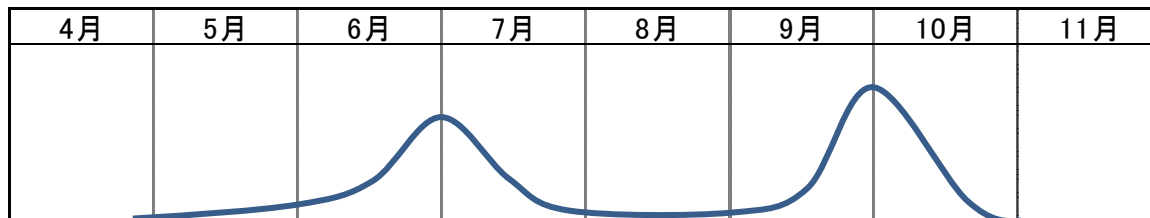


図4 誘引物質での発消長

## 3 防除対策

### (1) 耕種的防除

雨よけ栽培では目合い1mm以下の防虫ネットを開口部に展張し、ハウス内への侵入を防止する。  
誘引源となる有機質肥料や未熟堆肥の施用は避ける。

### (2) 薬剤による防除

播種時に粒剤を施用する。